

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

## 1. 実践校について

実践校名	(おおいたけんりつべっふしょうせいこうとうがっこう) 大分県立別府翔青高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
普通科	160名	4クラス	
グローバル・コミュニケーション科	40名	1クラス	
商業科	120名	3クラス	

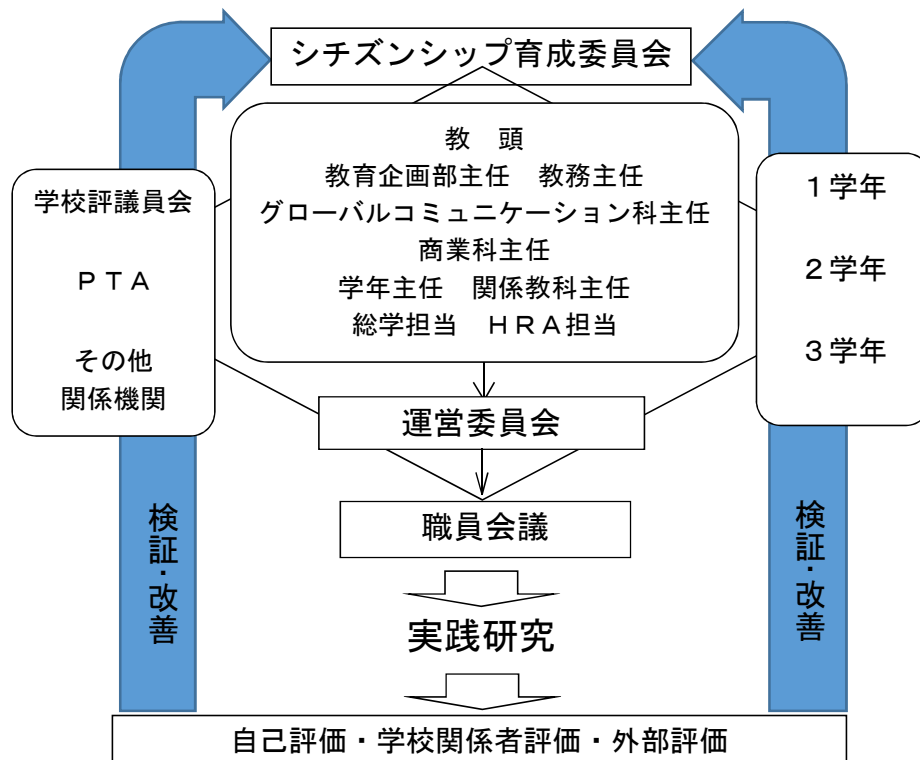
## 2. 実践研究の対象

2年、普通科、160名、4クラス

## 3. 実践研究の実施経過

月	学習プログラム	研究の対象	教育課程上の位置づけ
7	バーチャル市役所	政治参加に関すること	総合的な学習の時間
1	経済生活を営む (ライフプランニング)	結婚や家族に関すること	家庭基礎

#### 4. 実践研究の実施体制



#### 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

- 本実践研究については、大分県教育委員会から以下の指導・助言を受け進めてきた。
  - (1) 本校が大分県教育委員会の進める「学校図書館活性化推進プラン」の研究指定校であることから、学校図書館の利活用と連携させ、授業改善にもつながる実践研究を進めること。
  - (2) 本実践研究を同教育委員会が進めている「おおいたビジネス人材育成推進事業」(対象：商業科)と連動させ、一層の内容の深化を図ること。

#### 6. 実践研究の評価等

##### (1) 課題 (苦勞したこと)

- ① 「バーチャル市役所」では、学習活動の時間が不足したことで中間発表を行うことができなかった。また、生徒への助言を十分に行うことができなかった。
- ② 「経済生活を営む」(ライフプランニング)では、ライフプランを考えるうえで事前に金融に関する知識が必要であったが、関連科目との連携や事前学習が不足していた。

##### (2) 解決策

- ① 「バーチャル市役所」は、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、十分な学習活動が行えるよう時間を確保して実施する。
- ② 関連教科と連携し効果的に目的を達成できるようなカリキュラムマネジメントを行う。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：大分県立別府翔青高等学校（普通科・グローバルコミュニケーション科・商業科）

**概要**

- 職業研究や様々な講演会の活動を通じて、主権者意識や社会参画意識を育む学習プログラムを開発する。

**学習プログラムのねらい**

- 本校では「積極的に社会に参加する、責任と良識ある市民の育成」を学校目標としている。普段の学習活動と本実践を通して主権者として必要な政治的リテラシーを身につけさせ、学校目標の達成をねらいとする。そのために身につけさせたい能力と学習プログラムのねらいを以下の通りとする。

- a 将来の自分の在り方、生き方について考えることができる。
- b 情報を収集・分析し、身の回りの課題を捉えることができる。
- c 課題を主体的に解決するための方策を考えることができる。
- d 他人の意見も聞き、自分の考えを論理的に説明できる。

**学習プログラムの主な内容**

- (1) バーチャル市役所
  - ・生徒を別府市役所内にある各課室に仮配属した想定のもと、地域の様々な課題について調べ、発表する。
- (2) 経済生活を営む（ライフプランニング）
  - ・専門家からのアドバイスを受け、実際にライフプランニングを体験し、将来を見据えた生活設計と資産の運営について、より具体的で実践的な知識と技術を習得する。

**学習プログラムの成果の概要**

- (1) バーチャル市役所
  - ・身近な地域の課題に目を向けることができるようになった。
- (2) 経済生活を営む（ライフプランニング）
  - ・ライフプラン表を完成することを通して、自分の将来の夢や人生設計を考えることができるようになった。